

---

## 東日本大震災 為すべきこと、為し得ることを、為し得たか？

### —東日本大震災の診療支援—

(川口正一郎、全国自治体病院協議会雑誌 50: 1841-1843, 2011)

2013年9月9日、災害医学抄読会 <http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/>

---

同論文では、2011年3月11日に発生した東日本大震災の被災地における医療に、奈良県としてどのように取り組んだかを奈良県立奈良病院の活動から時系列に沿って見ている。

#### 3月11日地震発生直後

緊急医療支援対策会議にて災害救急医療とその後の医療支援の体制準備を確認し、派遣可能なDMAT隊、医療班を編成した。

#### 同日15時12分

DMAT隊の待機要請を受け、奈良県立奈良病院のDMAT隊2隊のうち1隊に院内待機命令を出した。同時に日赤奈良県支部からの要請を受け、日赤医療班の編成と出動待機を指示した。

#### 3月12日3時40分

DMAT隊が自衛隊輸送機にて花巻へ出発する。そのご3月15日まで活動を行った。

#### 3月14日8時

院内で東日本大震災災害対策会議を開催し、DMAT隊から収集した現地の医療情報を参考に、今後の医療提供体制を立案した。

#### 3月15日

医療救護班の出動に備え、構成人員、医療物資、移動手段などの確保を指示した。なお、医療救護班の活動は5月6日から10日であった。

奈良県立奈良病院の医療支援は、DMAT隊、日赤医療班、医療救護班の3隊であった。奈良県のDMAT隊は奈良県立医科大学3隊、県立奈良病院2隊、市立奈良病院1隊の計6隊が登録されている。また、奈良県には日赤病院がないため都道府県支部単位の日赤医療班の活動は県立3病院（県立奈良病院、三室病院、五條病院）が病院単位で順次行う取り決めがある。今回の震災では、3病院より1班ずつ日赤奈良県支部医療班として3月12日から25日までの間、岩手県にて活動した。

さらに宮城県からの医療支援の要請を受け、奈良県庁から県立医科大学に、続いて県内医療機関（全75病院）に医療救護班の派遣要請が出された。派遣は6月3日まで計19班が継続的に派遣され、奈良県として一定の支援活動を完遂した。

今回の医療支援を通して、より効率的な医療支援の仕組みを構築する必要性と医療従事者側へのきめ細かい配慮などの派遣内容の更なるレベルアップが行政に求められると思われる。さらに医療内容の細分化にともなって、薬剤師や保健師、臨床工学士、放射線技師、管理栄養士など幅広い医療スタッフが求められることについても、県が積極的に取り組んでいく必要があると考えられる。

奈良県の医療支援が、特に大きな混乱もなく遂行できたのは、県の医療行政の中核である医療政策部が指示機能を担い、各種の情報の収集、整理、集約、提供、要請を行ったことによると言える。